

南極から附中へ

南極観測隊員のつぶやき

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

校長通信 第35号 令和2年6月5日



○突然の休刊！

- ・来週月曜日からいよいよ附中が本格始動します（時差通学ですが）。それに伴い、附中生のみなさんがネットにふれる時間もなくなると思いますので、日刊「南極から附中へ」もしばらく休刊させていただきます。私は月曜日と木曜日に附中にきていますので、これまでの「南極から附中へ」の中で、分からないこと・さらに詳しく聞きたいことがありましたら校長室を訪ねてください。また、南極に関して、みなさんが知っていて、私が知らないと思われることを教えに来てくれるのも大歓迎です。
- ・今後は始業式・終業式などで私の研究を中心に話しをしたいと考えています。
- ・極地研究所（文部科学省の研究所の一つ、附中近くにある基礎生物学研究所などの三つの研究所と同じような国立の研究所）では、「中高生南極北極科学コンテスト」を催しています。毎年開催され、昨年第16回を数えました。しかし残念ながら今年は新型コロナの影響で中止になってしまいました。来年は開催されると思いますので、是非チャレンジしてみてください。副校長先生と一緒に取り組む「科学オリンピック」同様、分からないことがあれば、私に質問してください。過去の入選実験は <https://www.nipr.ac.jp/juniorcontest/> で確認することができます。

<最後に>

- ・今している勉強は何のためにしていますか？
みなさんも聞いたことがあると思います。トーマス・エジソンは、「1%の inspiration (インスピレーション、ひらめき) がなければ、99%の perspiration (パースピレーション、努力) は無駄である」という言葉を残しています。いましている努力が無駄にならないようにひらめきを大事にしてください。ひらめきを得るために「なぜだろう？ どうしてだろう？」を持ってください。言い換えれば、好奇心を忘れないでください。「なぜ」と思う気持ちは、歳を重ねるごとにだんだん小さくなってしまいます。だから意識的に鍛えてください。

「そんなところに疑問を持つ？」と言われるようなことがもっとも面白いことと私は思います。



<南極大陸氷床上で地震観測をしています>